

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104059		
法人名	株式会社 セービング		
事業所名	グループホーム棕野		
所在地	山口県下関市棕野3丁目22番43号		
自己評価作成日	平成29年5月29日	評価結果市町受理日	平成29年10月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成29年6月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム棕野の理念である「むりせず、くらくとものに、のんびりと」をモットーに、理念に沿った支援を目指しています。入居者の方と一緒に買物に行き、一緒に食材を選び、食事の用意をしています。掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、調理、配膳、後片付けなど、入居者一人ひとりに合わせて、家で過ごしていた時と同じように、役割を持って生活できるよう支援しています。毎月ご家族に広報誌「むくのだより」や写真、お便りを送り日々の生活をお伝えしています。家族会を年に数回開きご家族、入居者、職員のつながりが深まるよう支援しています。また、月に一度、外食やお弁当を作ったの外出をし、楽しく過ごしていただいています。地域の行事、清掃活動にも参加し、地域の中で生活できるように、支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

献立は、担当の職員が利用者の好みを聞いて立てられ、毎日利用者と職員が一緒に買い物に出かけられて、旬の食材や食べたいものを選ばれて、三食とも事業所で食事づくりをしておられます。利用者は下ごしらえ、盛り付けなど職員と一緒にされ、同じ食卓を囲んで会話をしながら食事をしておられます。おやつづくりや手づくり弁当を持参しての外食、家族会の外食、法人5グループ合同の外食など、食事を楽しむ支援をしておられます。職員の希望や段階に応じて外部研修への参加の機会を提供され、多くの職員が受講されている他、法人研修では基本的な職場マナーや法令遵守、介護技術を学ぶ機会が提供され、内部研修は、応急処置や感染症などの充実に取り組まれるなど、職員を育てる取り組みをされています。利用者一人ひとりの希望にそって、公園などの周辺への散歩や四季の花見、家族会での花見、道の駅、日の山公園、海響館等に出かけておられるなど、日常的な外出の支援に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を事業所内に掲示し、申し送り時に唱和して、スタッフ間で意義を共有している。また、内部研修で理念の意義の研修を行い、実践につなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。申し送り時に唱和している他、内部研修で職員間で話し合っ確認し、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し回覧板を入居者の方と一緒に回している。地域の一員として、行事や、清掃活動に参加している。地域の問題も、一緒に考えている。ボランティアの演奏時には案内をして参加してもらっている。	自治会に加入し、利用者と職員は一緒に回覧板を届けている。年2回の清掃活動に職員が参加している。利用者は地域の盆踊りやしめ縄づくり等に参加している。中学生の職場体験の受け入れをしている。ボランティア(オカリナ演奏、フラダンス、平家太鼓など)の来訪がある。近所教会から、花の差し入れがある。大学の焼き芋会に参加して学生と交流している。スーパーでの買い物時や公園への散歩時に、地域の人と挨拶を交わしている。	・地域とのつきあいの工夫
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治体を通じて、認知症で困っているかたの相談に乗ったり、運営推進会議で自治体の方に認知症の方の理解や、支援の方法を話している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者は評価の意義を説明し、全員で自己評価に取り組んでいる。自己評価をすることによって、日々のケアを振り返る機会とし、皆で話し合い、質の向上を目指している。	管理者は評価の意義について説明し、職員に担当項目を割り当てて記入してもらい、話し合っ管理者がまとめている。職員は評価を日々のケアの振り返りと捉えている。前回の評価結果を受けて、職員間で話し合い、応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施や災害時の避難訓練の実施など、改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での話し合いや意見は職員会議で話し合い、さらなるサービスの向上に活かしている。	会議は2ヶ月に1回開催し、利用者の状況報告、行事予定と報告、研修報告、ヒヤリハット、事故報告、避難訓練報告、外部評価結果報告などをして、話し合いをしている。災害時の避難方法や避難場所についての意見や提案があり、連絡方法等の確認しているなど、意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは、電話や直接出向いての相談、助言を得ており、事業所の実情を伝えながら、協力関係を築くようにしている。	市担当者とは、年1回の運営推進会議参加時に情報交換をしている他、直接出向いたり電話等で相談や情報交換しているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話で、事例相談や情報交換しているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束についての研修を受け、禁止の対象となる具体的な行為を理解しており、拘束のないケアに取り組んでいる。見守りを行いながら、自由に行動できるようにしている。	身体拘束について「身体拘束介助に関するマニュアル」を基に、内部研修で学び、職員は抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。職員会議で接遇マナーの研修をし、スピーチロックについても学んでいる。日常業務の中で気づいた時には、管理者が指導している他、職員間でも話し合っている。玄関は日中施錠せず、外出したい利用者には、職員と一緒に外出している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員、高齢者虐待防止関連法について研修をおこなっており、施設内で虐待がおこなわれることがないように、防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員、権利擁護についての研修を受けており、最善の支援ができるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にしっかり説明を行い、ご家族の不安や疑問の解消に努めている。 また、改定時も十分な説明を行い、理解を得ている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談、苦情の受付体制や手続きを説明している。また、玄関にご意見箱を設置し、意見や要望を受け付けやすくしている。意見や要望は職員会議や運営推進会議で報告し、運営に反映させている。	相談や苦情の受付体制、処理手続きについて定め、契約時に家族に説明している。面会時や年3回の家族会、運営推進会議時、行事参加時、事業所だより送付時、カンファレンス時、電話などで家族から意見や要望を聞いている。利用者を担当している職員が事業所だよりと行事の写真を添えて手紙を送っているなど、家族からの意見を言いやすい関係づくりに取り組んでいる。ケアに対する要望にはその都度対応している。運営に反映させるまでの意見や要望は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議には、代表者も出席し職員の意見や提案を聞いている。管理者はミーティング時、申し送り時に職員からの意見、提案を聞き、みんなで相談して決定している。	法人代表者や管理者が出席している月1回の職員会議時や申し送り時に職員からの意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中でも聞いている。代表者は週2回は事業所に来所し、職員とのコミュニケーションを図っている。職員は定期的に自由記入欄のあるストレスチェック表を提出している。資格取得についての意見や勤務体制の変更の要望など、反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は頻繁に事業所を訪問し、職員の思い、意見を聴いている。また、職員の勤務状況を把握し、やりがいのある職場環境の整備に努めている。資格取得後の報酬を考慮し職員が向上心をもって働けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議の中で毎回施設内研修を行っている。施設内研修は年間計画を決め、すべての職員が研修を受けられるようにしている。法人研修は毎月行い、全職員が受けられるように配慮している。外部研修は職員に情報を伝え、本人の希望や段階に応じて参加できるよう勤務の配慮を行っている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じ、勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は職員会議時に復命研修をして、資料は閲覧できるようにしている。虐待、防災フェアなどに参加している他、山口県宅老所・グループホーム協会の研修、ブロック研修(災害時のネットリンク)にも参加している。月1回の法人研修で、接遇マナーや介護技術等を実施している。内部研修は、年間計画を作成して、月1回、応急処置方法、高齢者虐待、プライバシー保護などを実施している。外部講師を招いて実施することもある。新人研修は、管理者の指導の下、日常業務の中で介護の知識や技術を学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会へ入会し、研修会、交流会に参加して、情報交換をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族との話を踏まえた上で本人を取り巻く環境を理解し、本人の話に耳を傾け安心できる環境を整えて穏やかに生活できるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時に家族の抱えている不安なこと、要望などしっかり聴いて、話し合い、信頼関係を築いていくよう努めている。また、相談しやすい雰囲気作りをするように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の思いを受け入れ、必要なサービスを総合的な見地から見つめご本人に合った最善の支援が出来るように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護や、援助をするだけでなく、日々の生活の中でご本人の能力に応じた調理や掃除等に参加していただき、皆さんの意見に耳を傾けながら、共に過ごす時間を大切にし、自分らしい生活ができるよう支援している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に何度か行われる家族会で、ご家族と共に過ごせる時間を設けており、ご家族の思いやご意見に耳を傾け、また、ご本人の状態等をお伝えし、ご家族と共に自分らしい生活が出来るよう支援している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の訪問の際には、ゆっくりと過ごしていただけるよう環境作りをしている。一緒に写真を撮り、思い出として残している。また、年賀状や葉書を書くお手伝いをし、友人・知人との関係が続くよう支援している。	家族の面会や親戚の人、孫、友人、近所の人などの来訪がある他、年賀状や葉書きでの交流の支援をしている。自宅周辺のドライブ、家族の協力を得ての外出、外食、一時帰宅、墓参り、寺参り、法事への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座る位置に配慮し利用者同士で会話をしたり、お互いに思いやりを持って接する事が出来るよう見守っている。トラブルの際はさり気なく間に入り良好な関係が持てるよう気を配っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には作品集や思い出のアルバムをお渡ししている。退去後もいつでもご家族からの相談を受け、これまでの関係を大切にしながら支援している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重出来るよう、日々寄り添いながら行動や言動を把握し、基本情報シートや24時間シートを活用しながら日々変化していく思いや意向を汲み取り、その心に応えられるよう心掛けている。	入居時の基本情報シートを活用している他、日々の関わりの中での利用者の言葉や様子、気づきなどを24時間生活変化シートに記録して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は介護経過表やサービス提供状況表を基に職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中での情報や、アセスメントシートの活用、ご家族からの情報からこれまでの暮らしの把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、本人と積極的に関わりを持つことによって、心身状態や出来る事の変化を把握するよう努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時に本人、家族、医師の考えを参考にしながら、本人の日常生活の中で変化していく行動や言動をもとに、より良く暮らせる為の課題やケアのあり方について皆で話し合いながら、介護計画を作成している。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に月1回、カンファレンスを開催し、本人や家族の意向、主治医や看護師等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。サービス提供状況表による毎日のモニタリングの他、3ヶ月毎モニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直しをしている他、利用者の状態や要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア、気付きは個別に24時間シートに記録し、定期的に職員ミーティングで日々の対応等に関する評価を行い介護計画の見直しをしている。細かな気付き、状態変化も情報共有しご本人様に無理のない介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の身体状況等の変化に応じて、専門家の方々の意見を参考に、ご家族とも連携を図り、その時の状態に合わせて柔軟に支援内容を見直すように取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院、近くのスーパー、コンビニ、教会など地域の方と関わり、協力を得られる事により、安全で豊かな社会生活が送れるように支援し、協力している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の説明をし、納得を得て、かかりつけ医と家族の関係を築いている。医師からの情報、家族からの情報を的確に伝え、適切な医療が受けられるように支援している。	本人や家族の了解を得て、事業所の協力医療機関をかかりつけ医として、月2回の訪問診療がある。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診の情報は口頭や電話で医師に伝えている。受診結果は家族へは電話で連絡している。職員間では24時間シートや伝達ノートに受診結果を記録し、共有している。夜間時や緊急時には協力医療機関と連携して適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康チェック表をもとに、日々の生活へのアドバイスをいただいている。24時間シートに情報、気づきを書き込み、看護師との連携を取っている。また、必要とあれば、受診するよう助言を貰っている。緊急時は24時間体制で対応を行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院関係者と情報交換を行い、ご本人が安心して治療できるように努めている。家族と共にご本人、病院関係者と面談し、早期に退院出来るように、努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合、終末期のあり方について、事業所の方針を説明している。本人、ご家族の希望を大切に、医師と連携を取りながら、自分らしく、無理なく過ごしていただけるように支援している。	契約時に「重度化した場合における指針」、「看取りに関する指針」に基づいて、事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族の意向を聞き、主治医や看護師等と話し合い、医療機関や他施設への移設、看取りも含めて方針を決めて、支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ひやりハット事例が起きた場合、報告書に記録し職員会議で再発防止策について改善点や対応策を検討する。事故防止に取り組むと共に緊急時に備え救急隊の方々に講習を開いていただき、応急処置の訓練や研修に全職員参加できるよう実地している。	事例が生じた場合は、ヒヤリハット報告書や事故報告書にその日の職員間で再発防止策に関わる対策を話し合い、記録した後に申し送り時に共有している。月1回の職員会議時に再検討して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故発生に備えて、職員1人が救急救命法の研修に参加している。内部研修で看護師の指導の下、年2回の応急手当や感染症、熱中症、表皮剥離、食中毒などを実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署の協力を得て、夜間の火災を想定した避難訓練を実施しており、避難、通報、消火器の使い方の訓練や避難経路の確認をしている。消防士から注意点、改善点のアドバイスをいただき、職員会議で検討し緊急時に備えている。また、災害時には地域の方々にも連絡がいく体制をとっており避難訓練時には一緒に参加していただいている。	年2回(1回は消防署の協力を得て)、夜間想定を含めた避難訓練(避難経路の確認など)を利用者や家族、運営推進会議メンバー(自治会長、民生委員)、地域の方の参加を得て実施している。災害時対応の研修に職員が参加し、復命研修で共有をしている。事業所の緊急自動通報システムに自治会長、民生委員の登録がある他、自治会長から各家庭に連絡が届き、協力を得られるよう了承を得てあり、地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの誘導時や介助中も、言葉かけには気を付け、誇りやプライバシーを損なう事のないよう、目上の人を敬うように対応している。	人格の尊重とプライバシーの確保について、内部研修で学び、職員は誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があれば、管理者が指導をしている他、職員間でも話し合いをしている。個人情報や守秘義務についても理解し、徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの都合や強制ではなく、自分の思いを表し自分で決定出来るように、適切な言葉かけをするように、心がけている。また、言葉での表現が難しい方は、その表情や態度に気を配っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ側の都合や時間を優先する事なく、入居者の気持ちを優先し、一人ひとりのペースに沿った支援をしていく。1日流れも、どのように過ごしたいか、本人の希望にそって支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに合わせ、おしゃれが楽しめるように支援している。毎月、訪問理美容があり、自分で希望されて、カットやヘアカラーをされている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞いて献立を作り、一緒に買い物に行き旬の食材、食べたいものを選んでいく。三食とも事業所で手作りし、利用者と職員と一緒に調理、配膳、後片付けを行っている。食事は一人ひとりに合った量や形態の工夫をしている。季節の献立、誕生日会のケーキ、お弁当、外食、おやつ作りなど、食事が楽しみになるよう支援している。	利用者にその日に食べたいものを聞き、献立を作成して食材を利用者と職員と一緒に買いに行き、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は下ごしらえ、味見、お茶くみ、台拭き、盛り付け、配膳、下膳、食器洗い、後片付けなどできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じ食卓を囲み、会話を楽しみながら同じ物を食べている。季節の行事食(お節、ソーメン流し、バーベキューなど)、誕生日のケーキ、おやつづくり(おはぎ、月見饅頭など)、寿司が食べたいという利用者の希望にそって回転ずしに行ったり、手づくり弁当を持参しての外出、年1回の家族会の外食、法人5グループホーム合同の食事会、月1回の外食などの他、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の体調に合わせて、食事の量、形態、栄養などバランスを考慮しながら食べていただいている。食事摂取量など、記録に残して、一日を通じて確保できるよう配慮している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人の出来る力に応じて、口腔ケアの声掛け、援助をおこなっている。定期的に義歯の洗浄、歯ブラシ、コップの消毒を行い、清潔を保っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、尿意、便意の訴えがあれば、速やかに対応している。一人ひとりにあった声掛けや対応を工夫し失敗やオムツの使用を減らすようにしている。	24時間生活変化シートを活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握して、言葉かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	前屈姿勢でスムーズな排便に繋がるよう声掛けを工夫している。水分をこまめにとる事や食物繊維を多く含んだ食事の摂取をおこなっている。日中の運動への働きかけで便秘予防に取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	通常は午後から入浴をおこなっているが、本人の希望に応じて午前も入浴できるよう対応している。楽しい入浴のひとつとなるよう、入浴剤や入浴用品などを使い工夫している。無理強いすることなくご本人の状態に合わせて、順番を代えたり、入浴日を代えたりして対応している。	入浴は隔日で、14時から15時30分の間にゆっくりと入浴できるように支援をしている。利用者の体調に合わせて清拭、足浴、シャワー浴など、個々に応じた入浴の支援をしている。入浴剤を使って色や香りを楽しんでいる。入浴したくない人には一人ひとりのタイミングに合わせて、声かけの工夫、職員の交代、時間の変更などで無理強いをしない支援に努めて、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の過ごし方を工夫し、夜間ゆっくり休めるよう支援している。一人ひとりのタイミングや習慣を大切に、状況に応じていつでも、居室で休めるよう支援している。夜間気持ちよく眠れるように、居室の温度、乾燥に気を配っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が服薬している薬の名前、用法、用量について理解している。服薬の際、職員同士確認し合い、声掛けをして、服薬支援をしている。また、服薬後の状態を確認するようにし、誤薬のないよう注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人ずつ得意な事、出来る事を、その時の状況に応じて、生活の中での支援やレクリエーションに取り組んで、張り合いや喜びを感じ、気分転換出来るように支援している。	カルタ、トランプ、紙コップタワー、お手玉、あやとり、新聞紙でのゴミ箱づくり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、シーツ交換、布団干し、居室のモップ掛け、生け花、鉢花の水やり、カレンダーの日めくり、体操(ラジオ、リハビリ、口腔)、脳トレ(計算、漢字、ことわざなど)、歌を歌う、新聞や雑誌、本を読む、日記をつける、テレビ視聴、折り紙、ちぎり絵、カラオケ、季節の行事(しめ縄飾り、焼き芋会、節分、花見など)、ボランティアによる大正琴、ギター演奏の鑑賞など、活躍できる場面をつくり、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの体調や希望等を考慮し、毎日の買い物や散歩で戸外に出かけられるように支援している。また、月1度の外出支援では体全体で感じられるような、メリハリのある気分転換に繋がる支援に取り組んでいる。また、ご家族と一緒に外出出来るように支援している。	公園など周辺の散歩、四季の花見(深坂の森の桜、園芸センターのバラ、弁当持参してのコスモスなど)、スーパーでの買い物、ドライブ(道の駅、火の山公園、海響館、亀山八幡宮、長府、忌の宮神社、毛利庭、カモンワークなど)、法人5グループホームの合同食事会等に出かけている他、家族の協力を得て外食、外出、一時帰宅、墓参り、寺参り、法事への出席など、戸外に出かけられるよう支援に努めている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解のもと、少額のお金をご本人の財布に入れられておられる方も少人数あり、電話代やおやつ代等に使えるように支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでもご家族や友人に電話をかける事が出来るように支援しており、ご本人様が納得し、安心されるように配慮を行っている。また、時季の手紙や葉書きが出せるよう声掛けし、見守り支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が利用者にとって不快感のないよう落ち着いた静かな環境作りを心掛けている。壁面には、利用者と一緒に作った季節の壁画を飾り、静かな音楽を流している。空気清浄機を設置し、感染防止、消臭に努めている。こまめに温度、湿度を調節し、居心地のいい空間づくりをしている。	街並が見える眺望のよいベランダのプランターにはミントなどが植えてあり、開放的な空間となっている。リビングは明るく、テレビコーナーの傍にはソファを配置し、和室は横になることもでき、利用者のくつろげる居場所となっている。対面キッチンの周りは利用者と一緒に食事の支度がしやすい工夫がしてある。湿度、換気、温度に配慮し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、畳コーナーや椅子、ソファなどを配置し、廊下、玄関でもくつろげるよう椅子を置いている。一人の時間を大切にし、また、気の合った方同士や職員とのかかわりが持てるようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が家で過ごされていた時の使い慣れた物や好みの物を持ってきていただいている。また、家族の写真や絵、書道を飾って居心地よく過ごせるように工夫している。	ベッド、箆笥、椅子、テレビ、机、仏壇、衣裳ケース、時計、ぬいぐるみ、本、雑誌などを持ち込み、家族の写真、絵、カレンダー、習字、ぬり絵の作品や花を飾って居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所など、なじみの言葉でわかりやすく表示されており、自分で行けるようにしている。 また、対面式のキッチンが中央にあるので、入居者の安全を確認しながら、一緒に調理、配膳を行うことが出来るよう工夫している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 棕野

作成日： 平成 29 年 10 月 16 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	15	事故防止の取り組みについて 全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員を対象にした応急手当や初期対応 の定期的な訓練をする。	・定期的な応急手当の訓練を行う	12ヶ月
2	2	・運営推進会議のひろがりがない ・地域の中でグループホームとしての特性がい かされていない	・運営推進会議をひろげていく ・地域の方にひらかれたグループホームに なるようにする	・自治会の班長さんにも出席していただく ・地域の方にも声かけをしていく ・グループホームの行事に地域の方も参加して いただく	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。